

戸塚在住で外国につながる人々への学習支援と交流ボランティア

「こ・こ・ろ」は戸塚近郊在住で外国につながる人々への学習支援やイベント企画を行っています。企画代表者が過去2年間行っていた家庭教師ボランティアの経験を通して、その人の将来の可能性を広げられる学習支援の大切さを感じていました。そこで大学近郊で学習支援を必要とする人がいるならそれに応えたいと思い情報を探していたところ、戸塚にあるボランティア団体「ユッカの会」と出会い、そこに通う子どもたちが学習支援を必要としていることを知りました。さらに外国につながる人々を対象とした学習サポートに関心を持っている明学生が多くいることを知り、サークル活動を始めようと決意しました。学習支援で教える学習者のペアのコーディネートとイベントに参加する子どもたちの紹介は「ユッカの会」に協力していただく形で進めています。ボランティアセンターからボラチャレ申請の勧めをいただいたこともサークル立ち上げの後押しとなり、また1年間を通して活動全般に対する積極的な助言をいただいたことは大変強みでした。「こ・こ・ろ」という名前には、学習者と私たち学生のこころとこころがつながっていくような信頼関係を築いていきたいという思いがこめられています。

こ・こ・ろは学習支援とイベントの2本柱で活動しています。学習支援は基本的に週に1回1時間程度、学校帰りに戸塚駅または横浜駅周辺で国語・英語・数学などの教科や日本語を教えています。こ・こ・ろのメンバーには、学習支援報告書というものを作成し、活動終了後に各自記入するように義務付けています。これは、日々の学習支援の様子を記録に残すことで、今後別の学生が担当になっても学習者に関する情報を得ることができ、より良い学習支援につながることを期待するためです。週に1回のミーティングでは、この報告書を元に個人で担当している学習者のペア、勉強の内容、教える上での工夫について皆で報告し合うことをおこなってきました。

学習支援の課題としては、「学習支援はなぜ必要なのか」という意義を理解して活動するところまではなかなか到達していないことだと感じています。ただ教えるだけではなく学習者の抱えている問題についてもっと関心を持ち、ユッカの会からゲストスピーカーを招いたり、自主的な勉強会をおこなうことで充実した学習支援につなげていくことが必要だと考えます。

イベントではまず子どもたちへの学習支援の基盤づくりのため、まずは楽しく触れ合いたいと考え8月に「こころをつなごう！夏のお楽しみ会」と題して一緒にゲームやお菓子作りをする交流会を開きました。中国にルーツをもつ小学生から高校生までの10名の子どもたちと「ユッカの会」のスタッフが2名引率として、参加しました。来日したばかりで日本語がわからない子どももいて戸惑うこともありましたが、言葉ではなく態度でコミュニケーションをとろうとする積極的な姿勢が大切であることを学んだ1日でした。この交流会がサークル立ち上げの起爆剤となり、また学習支援を必要とする子どもたちとの初顔合わせの機会となりました。

次に、外国につながる高校生を対象とした「明学プチキャンパスツアー2008」を実施しました。高校

生が3名、「ユッカの会」からの引率が2名計5名の参加がありました。これは高校生に明学を知ってもらうことで、大学進学を含め、将来を真剣に考えるきっかけとなってほしいという目的のもとに企画しました。レベル別の英語授業や比較政治学の見学、ボランティアセンターでのこ・こ・ろの活動紹介、高校生と同じ文化的背景をもつ明学生を呼んで高校生の進路について話し合う昼食会、キャンパス案内等を行いました。当日は授業があるため、限られた学生しか高校生たちの対応ができなかった、という難しさもありましたが、こ・こ・ろならではのキャンパスツアーを行うことができたのではないかと感じています。今後は学習支援もイベントも、学習者への理解を軸にして進めていくことが大切だと思います。

活動全体を振り返ってみて、学習支援は個人でもできる活動ですが、サークルとして活動することによって、ミーティングでの報告や勉強会を通して学習支援をおこなっていく上での課題を解決し、より質の高い学習支援を目指すことができるという意義をサークル全員で共有することがこれからの課題です。それがまた地域からのニーズに応えることでもあると思っています。外国につながるといっても背景によって抱える問題も様々なので一人ひとりの気持ちを理解し尊重すること、そこに明学生らしさ(年齢が近いなど)を発揮すること、それが私たち学生に求められているのだと認識しています。

以上のような活動の成果と課題をふまえ、今後は学習支援を中心とした国際交流を通して、外国につながる人々の可能性を広げるといふ理念のもとに、学習支援とイベントを通して外国につながる人々が自信を持って自分らしく生活していけるような活動を展開していきたいと考えています。



(国際学部国際学科3年 須藤 順子)